平成30年度

事業報告書



理念

尾鷲市のだれもが 安心して生活できるまちづくりをすすめていく

職員心得

- 一、笑顔であいさつ
- 一、責任ある行動
- 一、思いやりを持って接する

目次

I. 企画調整部門
1. 総務・福祉係1
II. 総合相談·支援部門
1. 生活支援係 19
2. 地域包括支援センター25
3. 紀北地域障がい者総合相談支援センター結33
III. 介護サービス部門
1. 介護事務 44
2. 居宅介護支援事業所45
3. 訪問介護事業所48
4. 訪問入浴事業所52
5. 尾鷲通所介護事業所53
6. 輪内通所介護事業所55
IV. 輪内高齢者サービスセンター
1. 輪内高齢者サービスセンター57

I. 企画調整部門

1. 総務・福祉係

1. 会務の運営

適正な法人運営と円滑な事業推進を図るため、次のとおり理事会並びに評議員会を開催した。

(1) 理事会

第1回 平成30年6月7日 出席者12名

- 議題 ・平成29年度事業報告(案)について
 - ・平成29年度決算(案)について
 - ・平成30年度【第1回補正】資金収支予算(案)について
 - ・定款細則の一部改正(案)について
 - ・評議員選任候補者の推薦(案)について
 - ・評議員選任・解任委員会の招集(案)について
 - ・平成30年度定時評議員会の招集(案)について
- 報告 ・理事選任候補者及び監事選任候補者について
 - ・社会福祉充実残額について

第2回 平成30年7月19日 出席者12名

- 議題・役員の紹介
 - ・事務局職員の紹介
 - ・尾鷲市社会福祉協議会の概要
 - ・平成30年度事業計画について
- 報告 ・中央駐車場のブロック塀が取り壊されることに対する社協の対応について
 - ・平成30年7月豪雨災害に対する支援について
 - ・役員交代に伴う監督行政庁への変更届について

第3回 平成30年12月13日 出席者11名

- 議題 ・平成 30 年度【第2回補正】資金収支予算(案)について
 - ・評議員選任候補者の推薦(案)について
 - ・評議員選任・解任委員会の招集(案)について
 - ・平成30年度第2回評議員会の招集(案)について

報告 ・当社協を取り巻く不安材料について

第 4 回 平成 31 年 3 月 14 日 出席者 11 名

- 議題 ・平成30年度【第3回補正予算】資金収支予算(案)について
 - ・平成31年度事業計画(案)について

- ・平成31年度【当初予算】資金収支予算(案)について
- ・苦情解決事業 第三者委員の選任(案)について
- ・平成30年度第3回評議員会の招集(案)について

報告 ・尾鷲市社会福祉協議会事務局設置規定の設置について

- ・働き方改革関連法施行に基づく職員就業規則等の変更について
- ・平成30年人事院勧告に基づく職員給与規程等の変更について

(2) 評議員会

第1回 平成30年6月22日 出席者25名

- 議題 ・平成 29 年度事業報告(案)について
 - ・平成29年度決算(案)について
 - ・平成30年度【第1回補正】資金収支予算(案)について
 - ・理事の選任(案)について
 - ・監事の選任(案)について

報告 ・社会福祉充実残額について

第2回 平成30年12月21日 出席者31名

議題 ・平成30年度【第2回補正】資金収支予算(案)について

報告 ・当社協を取り巻く不安材料について

第3回 平成31年3月22日 出席者30名

議題 ・平成30年度【第3回補正予算】資金収支予算(案)について

- ・平成31年度事業計画(案)について
- ・平成31年度【当初予算】資金収支予算(案)について

報告 ・次回の評議員会について

(3) 監事監査

- ① 平成 30 年 5 月 21 · 22 日 監事 2 名
 - ・平成29年度の事業及び決算についての監査
- ② 平成 30 年 11 月 29 日 監事 2 名
 - ·平成30年度4月~9月 定期会計監査

(4) その他の監査

① 平成 31 年 1 月 23 日 財政援助団体等監査(尾鷲市監査事務局)

2. 事務局体制の強化

(1) 職員体制の強化

平成31年度事業強化に備え、採用試験・登用試験を行った。

- ·採用者数 正規職員 5名、嘱託職員 3名
- · 登用者数 正規職員 1名

(平成30年度退職者正規職員3名、嘱託職員3名)

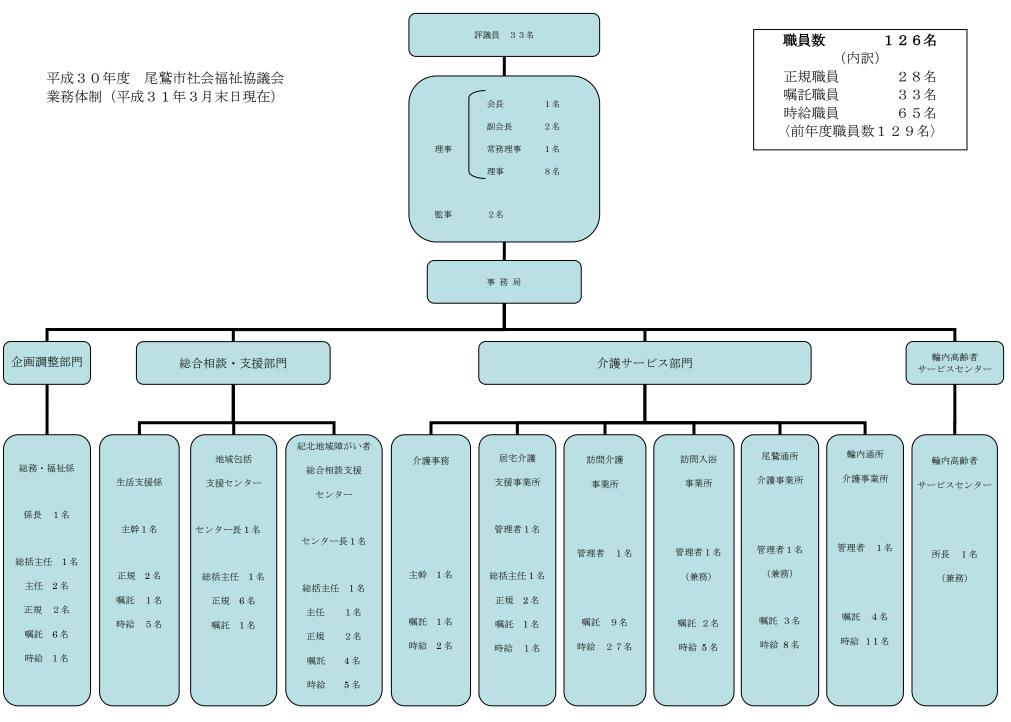
- (2) 福祉関係資格取得奨励及び各種研修会への参加
 - ① 資格取得の状況 社会福祉士 1名主任介護支援専門員 1名
 - ② 研修会への参加と開催

経験や役職に応じた必要な知識や技術の習得を目指し、業種や職種を問わず福祉職員に求められる専門性と、社会人・組織人として共通に求められる能力を養うため、県社協の実施する役職員セミナーや専門・職種別研修会に積極的に参加した。

・新任職員研修Ⅱ 3名
 ・初任者コース 2名
 ・中堅職員コース 2名
 ・チームリーダーコース 2名

- (3) 活動基盤の改善・充実
 - ① 会計・税務顧問契約の締結

関係法令等の改正により高まる会計・税務の専門性に対応するため、平成29年度より税理士法人と顧問契約を締結。今年度も引き続き指導を仰ぎ、適切な運営に努めた。



3. 地域福祉財源の確保と活用

- (1) 補助事業・委託事業などの公的財源の確保
- (2) 自主財源の確保
 - ① 善意銀行の運営

市民の善意により、現金物品が寄贈された。

【現金】一般預託 15 件 575, 629 円 指定預託 4 件 180, 000 円 合 計 19 件 755, 629 円

※前年度合計 25 件 591,574 円

【物品】ボルダリング設備(1件 300,000円相当)

- (3) 地域福祉基金を活用した事業実施
 - ① マイクロバス貸出事業

マイクロバスを貸し出して、各種団体の活動支援を行った。

利用団体:20団体(前年度 24団体)

利用回数:延べ40回(前年度 延べ44回)

② ご当地キャラクター「ヤーヤにゃん」 尾鷲社協ご当地キャラクター、尾鷲よいとこ ヤーヤにゃんを用いて尾鷲の観光PRをすると ともに、福祉へのイメージアップを図った。



(ア)出演

職員がスタッフとして市内外のイベントに出演した。

出演回数:12回(前年度8回)

(イ)貸出

着ぐるみの貸し出しを行った。

貸出回数:14回(前年度11回)

(ウ) デザイン使用

出版物等にイラストの使用を許可した。

件数:12件(前年度9件)

4. 福祉団体活動支援

(1) 尾鷲市老人クラブ連合会の活動支援

老人の健康、生きがいなどの福祉の向上を図るとともに社会奉仕活動への 積極的な参加促進を支援した。

- ① 老人クラブ連合会活動の支援 26 クラブ·会員数 1,285 名
- ② 尾鷲市福祉保健センターを活用した各種講座の開催 14 講座 3,358 名(前年度12 講座3,508 名)
- (2) 尾鷲市遺族会の活動支援

遺族会の活動を支援した。

① 尾鷲市戦没者追悼式(尾鷲市との共催)

開催日:平成30年6月2日場所:尾鷲市民文化会館

参列者: 250 名

5. 苦情解決事業の推進

苦情に対して、社会性・客観性を確保するため第三者委員会を設置し、利用者の立場や特性に配慮した適切な対応を行うための体制を整えた。

(1) 苦情解決体制の構築

苦情解決責任者 事務局長 苦情受付担当者 総務·福祉係長 第三者委員 3名委嘱

(2) 苦情内容・苦情総数

(単位:件)

苦情の内容	平成 30 年度	前年度
ケアの内容に関わる事項	0	0
個人の嗜好・選択に関わる事項	0	0
財産管理·遺産·遺言等	0	0
制度・施策に関わる事項	0	0
その他 (職員の言動·交通マナー・施設管理)	0	2
本会以外への苦情等	0	0
合計	0	2

6. 小地域福祉活動

(1) 地区福祉委員会の活動支援

① 代表者会議の開催

各地区の代表者に集まっていただき、地区福祉委員会活動の現状と課題について整理し、今後の方向性を確認した。

開催日:平成30年8月31日

場 所:尾鷲市福祉保健センター3 階栄養指導室

内 容:活動財源の有効活用と地域の合意形成について

参加者:14名





② 研修交流会の開催

地域の課題解決力を高める人材育成講座として 4 日間の生活支援ボランティア育成講座を開催し、地区福祉委員に参加を呼びかけた。

開催日:平成31年2月18日(月)~3月18日(月)

場所:尾鷲市中央公民館講堂

内容: わがらの町の暮らしささえ合い塾

参加者:39名



- ③ 地区福祉活動広報誌「地区福祉委員会だより」発刊(不定期) 地区福祉委員会の目的の再確認や活動紹介など、委員会への情報発信として広報誌を発刊した。
- ④ 助成金の交付

地域福祉の増進を目指し、地区福祉委員会の活動継続を促進するため 16 地区に助成金を交付した。

- (ア) 基本助成:16 地区 320,000円
 - 地区福祉委員会の事務費等活動維持費として助成
- (イ) 活動助成:16 地区 600,500 円
 - ・ 各地区独自の活動費として助成
- (ウ) 事業助成: 17 地区 1,699,100円(※委員会準備地区含む)
 - ・ あったかふれあい訪問、ふれあいサロン、世代間交流事業に係る事業費として助成

7. ボランティア・市民活動センター事業

- (1) ボランティア・市民活動センターの効果的な運営
 - ① 市内ボランティア・市民活動団体への情報提供
 - ② ボランティアコーディネーターによる相談支援:14 件
 - ・ 企業ボランティアの活動相談
 - ・ 新規ボランティア活動の相談
 - · 外国人労働者の日本語学習
 - ・ ボランティア団体の立ち上げ支援
 - ・ ボランティア活動者の募集支援 など
 - ③ ボランティア保険の加入支援
 - ・ 活動保険:加入件数 811 名(うち保険料助成 486 名)
 - ・ 行事用保険:加入件数 42 行事のべ 3.345 名
 - ④ ボランティア団体助成:13 団体 260,000 円
 - ・ ボランティア団体の活動支援として助成
- (2) 生活支援ボランティアのしくみづくり
 - ① わがらの町の暮らし支えあい塾(生活支援ボランティア育成講座) 生活支援ボランティアのしくみづくりのための人材育成として、4日間の ボランティア育成講座を開催した。

場所:尾鷲市中央公民館講堂

内 容: 第1回 平成31年2月18日(月)

地域で考えるこれからのささえ合い

講師:皇學館大学 大井智香子氏

第2回 平成31年2月26日(火)

「制度のはざま」とささえ合い

講師:尾鷲市社会福祉協議会 上田香織他

第3回 平成31年3月4日(月)

気軽に元気にサロン活動!

講師:三重県レクリエーション協会 津幡佳代子氏

第4回 平成31年3月18日(月)

聞いてみよう!ささえ合い活動

講師:紀宝町社会福祉協議会 稲本知見氏他

参加者:79名





(3) 災害ボランティアのしくみづくり

① 災害ボランティアコーディネーター養成講座 災害ボランティアのしくみづくりのための人材育成として、5 日間のボランティア育成講座を開催した。

場 所:尾鷲市福祉保健センター4階多目的ホール

内 容:第1回 平成30年9月15日(土)

(1)尾鷲市における災害時の対応

講師:尾鷲市防災危機管理課 古川裕司氏

(2)災害ボランティアセンターの役割

講師:尾鷲市社会福祉協議会 山本雄一

第2回 平成30年9月29日(土)

(3) 玉城町災害ボランティアセンターでの活動の実際

講師:玉城町社会福祉協議会 中西弘美氏

(4)外部ボランティアの強み

講師:ピースボート災害ボランティアセンター 合田茂広氏

第3回 平成30年10月6日(土)

(5)災害時におけるボランティア活動

講師:みえ防災市民会議 中村伊英氏

第4回 平成30年10月27日(土)

(6)ニーズ調査の必要性

講師:伊勢市社会福祉協議会 野中秀行氏

(7)災害時・平時のニーズ調査について

講師:尾鷲市社会福祉協議会 山本雄一

第5回 平成30年11月3日(土)

(8)ニーズ調査訓練

参加者:一般12名 聴講5名





② 災害ボランティアセンター設置運営訓練

(ア) 尾鷲市土砂災害総合防災訓練

開催日:平成30年6月24日(日)

会 場:大曽根浦埋立地

内 容:災害ボランティアセンター開設訓練①

(イ) 尾鷲市巨大津波対処機関合同訓練

開催日:平成30年10月21日(日)会場:尾鷲市瀬木山町第四岸壁

内 容:災害ボランティアセンター開設訓練②





③ 災害ボランティアに関する啓発

(ア) ちびっこ防災フェアへの出展 開催日: 平成30年5月5日(土)

会 場:夢古道おわせ駐車場

内 容:災害時のボランティア活動について

(イ) 尾鷲市防災フェアへの出展

開催日:平成30年11月23日(祝) 会 場:県立熊野古道センター駐車場

内 容:災害時のボランティア活動について





8. 子育て・児童福祉

(1) 子育て支援事業

- ① 子育てグッズ「無料レンタル」事業 チャイルドシート、ベビーカー、ベビーベッドを貸出した。 新規貸出件数:57件(前年度 61件)
- ② 子育てグッズ「リサイクル」事業 自宅で不要になった物品の仲介を行った。 リサイクル物品提供件数:9件(前年度 8件)
- ③ 児童コーナーの自由開放を行った。 利用延べ人数:632名(親:292名 子:340名)

- ④ こどもの日すこやか事業 保育園・幼稚園児に子供の日の菓子を贈呈した。 対象児童 405 名(前年度 435 名)
- ⑤ 小学校卒業記念品贈呈事業 一人親家庭の小学校卒業生に卒業記念品として図書券を贈呈した。 対象児童 27 名(前年度 21 名)

9. 生活支援体制整備事業(通称:地域支え合い応援事業) 新規

高齢者の日常生活上の支援体制の充実・強化、及び高齢者の社会参加の推進を一体的に図るべく、下記の活動を行った。

- 1. 活動者の状況
- (1) 生活支援コーディネーターの配置: 2名
 - ①第1層生活支援コーディネーター(正規)
 - ② " (嘱託)
- (2) 生活支援コーディネーターの活動の回数

 市との打ち合わせ
 17

 モデル地区会議
 5

 地域訪問・相談等
 30

 地域支え合い応援隊会議
 3

 講座開講
 4

 その他
 1

 総計
 111

(3)制度についての周知啓発

当会及び他の団体が主催する会議に出席し、事業主旨の説明を通して、住民の意識啓発・醸成を図るべく事業説明を行った。地域の既存団体とのネットワーク構築につながった。

- ①平成30年4月19日 尾鷲市老人クラブ連合会 会長会議
- ②平成30年6月7日 尾鷲市民生委員児童委員協議会における 在宅福祉委員勉強会
- ③平成30年7月19日 尾鷲市地域包括ケア会議 全体会
- ④平成30年11月23日 尾鷲市社会福祉大会 地域福祉実践発表

(4)モデル地区の指定・支援

地域の支え合いの仕組み作りを根付かせるべく、モデル地区として指定し、相談援助や情報提供等の支援を行った。

- ①九鬼町:集落支援員を中心に、住民主体の生活支援ボランティア結成 及び移動支援を中心とした生活支援の仕組み作り支援
- ②大滝町:大滝会館を拠点とした地域住民の居場所作りを通し、地域の 横の繋がり再構築支援
- ③その他地区

三木浦町:座談会開催

(5) 地域支え合い応援隊会議の開催

· 第 1 回 開催日: 平成 30 年 7 月 19 日

内 容:第1層協議体の設置

生活支援体制整備事業(地域支え合い応援事業)開始に係る、関係機関への情報共有・合意形成

機関としての周知

· 第 2 回 開催日: 平成 31 年 2 月 21 日

内 容:平成30年度の活動報告、次年度の活動方針の提案

·第3回 開催日:平成31年3月1日

内 容:『移動支援を考える勉強会』として開催

(6) 生活支援コーディネーターの技能向上・他市町の事例研究 |視察|

・平成30年5月30日 桑名市地域ケア会議の手法を視察

・平成30年11月8日 大台町シニアリーダー養成講座において

ワークショップの技法を視察

・平成31年2月14日 四日市市の有償生活支援サービス2団体を

視察

・平成31年2月27日 紀宝町社会福祉協議会における生活支援

ボランティアサービス事業の視察

研修

・平成30年8月31日 生活支援コーディネーター養成研修を受講

・平成30年9月9日 キャラバン・メイト養成研修を受講

・平成31年2月3日 名古屋スクエアステップ指導員講習を受講

・平成31年3月17日 全国コミュニティライフサポートセンター

による『支え合いの地域づくりの進め方』

への参加

10. 地域ふれあい事業(高齢者)

(1) おしゃべりほのぼのサロン

高齢者の生きがいづくり・見守り支援を目的とした高齢者サロンを当会職員とボランティアの協力で実施した。

延べ参加人数実績

(単位:人)

地区 人数	尾鷲	九鬼	早田	須賀利	合計
参加人数	62	78	60	49	249
前年度人数	93	89	77	65	324





(2) ふれあいサロン・あったかふれあい訪問活動・世代間交流事業

地域での孤立防止、困りごとのキャッチ、見守り活動を目的として、地区 福祉委員会による『あったかふれあい訪問』、『ふれあいサロン』、『世代間交 流事業』を重点的に支援した。

各地区の年間活動実績

州区泊	区福祉委員会		世	代間交流			
地区価1	业安貝云	回数	延べ人数	回数	延べ人数	回数	延べ人数
三	木浦	4	478	1	17	3	380
賀	(田	1	80	1	88	1	52
矢	浜	1	186	2	43	0	0
倉	ノ谷	2	171	4	104	1	44
中	村町	4	332	0	0	0	0
三	木里	3	263	0	0	0	0
古	江	4	458	19	509	0	0
榠	賀	2	100	2	35	0	0
坂	場	4	334	1	16	0	0
曽根		2	103	2	104	0	0
九鬼		1	157	3	142	0	0
宮ノ上	宮ノ上・座ノ下		144	5	137	3	179
-	泉	3	139	0	0	0	0
須?	賀利	1	85	0	0	0	0
新	f田	4	350	0	0	0	0
な。	みき	3	604	0	0	0	0
			【未結	成地区]		
天満る	れあい	2	83	0	0	0	0
	訪問 17 地区 延べ 43 回		延/	ヾ4,067名			
今年度サロン10 地区世代間4 地区		1	0 地区	延べ 40 回		延べ 1, 195 名	
		3	正べ 8 回	延べ 655 名			
	訪問	1	9 地区		Eべ 53 回	延~	ぐ 4, 780 名
前年度	サロン	1	4 地区	延	Eベ 49 回	延~	ヾ1,534名
	世代間	4	4 地区	延	Eべ 10 回	延	べ 639 名





(3) 友愛訪問活動(尾鷲市老人クラブ連合会実施主体)へ助成金を支援した。

各会長、役員、会員が高齢者等の家庭を訪問し、安否確認と日常生活について話し合った。

訪問対象者人数 563 名(前年度 400 名) 助成金額 26 団体 182,000 円

11. 地域ふれあい事業 (世代間・地域交流)

子どもたちが心豊かに育つ一助となること、および世代間・地域交流を目的に、個人ボランティアや中高生ボランティアとともに次の事業を開催した。

(1) 福祉映画上映会&流しそうめん大会

開催日:平成30年8月2日(木)

参加者:小学生・障がい者 計194名

内 容:映画「ダンボ」上映、流しそうめん大会

ボランティア: 高校生 30 名 婦人会 3 名

(2) もちつき大会&育児用品持ち寄り交換会

開催日:平成30年12月22日(金)

参加者:乳幼児・保護者・障がい者計 68 名

内 容:もちつき大会・育児用品の交換会

ボランティア:中学生 19 名 高校生 7 名

婦人会・一般 11 名





12. 福祉教育事業

(1) 福祉協力校の指定と助成

福祉協力校〈小学校7校、中学校2校、高校1校、特別支援学校1校〉を 指定し、各学校の福祉教育の充実を図るために助成を行った。

助成金額 10 校 450,000 円 (1 校 45,000 円上限)

(2) 福祉協力校との懇談

各学校を訪問し、福祉教育担当者と懇談、情報交換を行った。

(3) 福祉体験教室の開催

福祉体験教室の開催や、福祉教育授業への支援を行った。

内 容:福祉保健センター見学、福祉教育授業、車椅子等の体験授業

実施校:尾鷲小学校、矢浜小学校、向井小学校、輪内中学校





(4) 福祉作品コンクールの実施

福祉教育の一環として、小・中学校生を対象に、福祉をテーマにした標語 を募集し、入賞作品を尾鷲市社会福祉大会にて表彰した。

応募総数 665 点

表彰者 小学校低学年の部 金賞1名 銀賞2名 銅賞2名

小学校中学年の部 金賞1名 銀賞1名 銅賞2名

小学校高学年の部 金賞1名 銀賞2名 銅賞2名 中学校の部 金賞1名 銀賞1名 銅賞1名





13. 広報·啓発事業

(1) 尾鷲市社会福祉大会の開催(尾鷲市との共催)

尾鷲市の福祉に貢献された方を顕彰し、福祉の啓発と活動の周知を行った。

開催日:平成30年11月23日(祝)

場 所:尾鷲市中央公民館

参加者:113名

内 容:第一部 顕彰

尾鷲市市長表彰

25 名

尾鷲市社会福祉協議会会長表彰 12名

第二部 福祉作品コンクール表彰 17名

実践発表『九鬼地区における助け合いのしくみづくり』

九鬼地区集落支援員 豊田宙也氏

実践発表『地域の助け合いを支援する取り組みついて』

尾鷲市社会福祉協議会 上田香織





(2) 広報誌「おわせ社協」の発行

事業の周知と福祉の啓発を目的に、全世帯に向けた広報誌を年間4回 (5月・7月・10月・3月)発行した。

14. 社協賛助会員制度

会員制度による住民参加、地域福祉活動の充実を目標に、当会役員、民生 委員児童委員、地区福祉委員会などの協力・連携により、賛助会費の募集を 行い地域福祉活動の財源確保に努めた。

(単位:円/件)

	平成 30 年	平成 30 年度 平成 29 年度 前年比較		平成 29 年度		較
	金額	件数	金額	件数	金額	件数
賛助会員	1, 384, 000	1, 191	1, 461, 000	1, 261	▲ 77, 000	▲ 70
特別会員	340, 000	42	365, 000	48	▲ 25, 000	1 6
総数	1, 724, 000	1, 233	1, 826, 000	1, 309	▲ 102, 000	▲ 76

15. 尾鷲市共同募金委員会事務局の支援

(1) 赤い羽根共同募金運動の実施

尾鷲市共同募金委員会として民生委員児童委員、自治会、婦人会など多くの関係者の協力を得て募金活動を実施した。

① 一般募金運動(期間:平成30年10月1日から平成31年3月31日)

募金実績(単位:円)

	平成 30 年度	平成 29 年度	前年比較
目標額	3, 014, 300	3, 022, 700	▲8, 400
実績額	2, 681, 743	2, 745, 648	▲ 63, 905
達成率	88. 97%	90. 83%	_

募金種別による内訳

募金種別による	内訳				(単位:円/	<u>/件)</u>
	平成 30 :	年度	平成 29 年	度	前年比較	
	金額	件数	金額	件数	金額	件数
戸別募金	1, 529, 053	3, 361	1, 701, 430	3, 375	▲ 172, 377	▲ 14
法人募金	675, 000	110	666, 250	110	8, 750	_
街頭募金	96, 184	5	56, 236	5	39, 948	_
学校募金	117, 973	10	104, 105	13	13, 868	▲ 3
職域募金	140, 624	28	102, 427	32	38, 197	4
イベント募金	63, 888	9	70, 462	7	▲ 6, 574	2
個人募金	14, 384	3	9, 918	3	4, 466	_
その他	44, 637	24	34, 820	23	9, 817	1
合 計	2, 681, 743	3, 550	2, 745, 648	3, 568	▲ 63, 905	▲ 18

16. 日本赤十字社三重県支部尾鷲市地区事務局

(1) 社資増強運動(日赤募金)の実施

平成30年5月1日より1ヵ月間、日赤三重県支部尾鷲市地区として日赤 奉仕団(尾鷲市婦人の会連絡協議会)、自治会等の協力を得て、募金運動を実 施した。

募金実績(単位:円)

	平成 30 年度	平成 29 年度	前年比較
目標額	2, 775, 000	2, 830, 000 円	▲55,000円
実績額	2, 384, 358	2, 437, 080 円	▲52, 722 円
達成率	85. 9%	86. 1%	-

(2) 災害救援物資の配布(日本赤十字社救援事業)

平成30年度は災害救援物資を配布する規模の災害はなかった。

(3) 義援金の募集

・東日本大震災義援金	1件	8, 378 円
(累計 51,522,608円)		
・熊本地震災害義援金	3 件	47, 000 円
(累計 5,038,591円)		
·平成30年7月豪雨災害義援金	48 件	1, 529, 074 円
· 平成 30 年北海道胆振東部地震災害義援金	11 件	250, 843 円

17. 尾鷲市福祉保健センターの管理運営

福祉・保健活動の拠点として研修会や交流、市民の社会参加の場として市 民が利用しやすい環境を整備し、管理運営を適切に行った。

(1) 年間利用実績

・延べ利用回数 3,472回(前年度 3,411回)

・延べ利用者数 62,316 人(前年度59,669人)

(2) 防火訓練の実施

内 容:防火等に関する講話 実施日:平成30年7月24日

内 容:避難誘導訓練、通報訓練、初期消火訓練

実施日: 平成 31 年 3 月 19 日

II. 総合相談·支援部門

1. 生活支援係

1. 総合相談

(1) 総合相談事業

① 総合相談事業

「だれもが安心して生活できるまちづくり」の理念のもと、相談者の困りごとに寄り添い、各係や関係機関と連携し、相談対応を行った。

(ア) 相談実績について

相談件数:52件(相談者の属性や内容に重複あり)

(単位:件)

(単位:件)

属性	今年度	前年度
困窮者	36	50
高齢者	12	12
障がい者	4	4
その他	0	3

<u> </u>		
相談内容	今年度	前年度
自立生活に関すること	10	16
家計管理に関すること	23	28
貸付に関すること	16	24
借金・滞納に関すること	5	7
成年後見制度に関すること	7	12
日常生活自立支援事業の利用	9	12
消費生活に関すること	1	0
虐待・権利侵害に関すること	1	1
生活支援に関すること	13	7
地域・人間関係に関すること	6	2
仕事に関すること	5	2
その他	5	2

2. 生活再生相談事業

(1) 生活困窮者自立相談支援事業(市受託事業)

生活に困窮している方を対象に、計画的に生活困窮状態から脱却するための支援を行った。

① 相談対応

(単位:件)

	今年度	前年度
相談件数	36	50
支援計画策定	9	16
のべ対応	569	488
(支援申込み前含む)		

(単位:件)

対応内容	今年度	前年度
電話相談	279	114
訪問・同行支援	89	116
面談	152	142
所内会議	0	0
支援調整会議(プラン策定・評価)	18	23
その他関係機関との会議	3	6
関係機関との照会・協議	21	73
その他	7	14

② 支援体制の構築

- (ア)制度についての周知啓発
 - A) 広報紙等を活用した周知啓発
 - B) チラシ・リーフレット配布
- (イ) 関係機関との連絡会議
 - · ハローワーク尾鷲との連絡会議(平成30年10月17日)
- (ウ) 支援調整会議 (開催回数:11回)

(2) 家計相談支援事業(市受託事業)

生活困窮者のうち、家計管理に問題がある方を対象として、計画的に家 計管理に関する相談援助を行い、経済的自立を支援した。

①相談対応

(単位:件)

	今年度	前年度
相談件数	23	28
支援計画策定	9	16

② 対象者が抱える課題(支援決定者のみ)

(単位:件)

のべ件数	今年度	前年度
税金の滞納	5	10
医療費の滞納	2	1
公共料金の滞納	6	7
債務(銀行や消費者金融など	7	12
家計管理の問題	7	16
低所得	9	13

(3) 被保護者就労支援事業(市受託事業)

生活保護受給者を対象として、就労に向けた支援を行った。

①相談対応

(単位:件)

	今年度	前年度
相談件数	7	6
のべ対応	140	102

② 対応結果

(単位:件)

のべ件数	今年度	前年度
常勤就労	0	1
パート就労	0	1
福祉的就労	2	0

(ア) 関係機関との連絡会議

・ ハローワーク尾鷲との連絡会議(平成30年10月17日)

3. 生活資金貸付事業

- (1) 生活福祉資金貸付事業(実施主体:三重県社会福祉協議会)の貸付状況
- ① 平成 30 年度中の完済件数

(単位:件)

資金種類	件数	前年度
障がい者自動車購入費	0	1
緊急小口資金	1	1
計	1	2

② 平成 30 年度中の新規貸付件数

(単位:件)

資金種類	件数	前年度
教育支援費	0	2
福祉費	0	1
障がい者自動車購入費	1	0
緊急小口資金	1	0
計	2	3

③ 平成 30 年度末現在の貸付件数

(単位:件)

資金種類	件数	前年度
教育支援費	12	12
福祉費	4	4
技能習得費	1	1
障がい者自動車購入費	1	0
緊急小口資金	3	3
計	21	20

(2) 福祉金庫緊急貸付事業(当会独自事業)の貸付状況

(単位:件)

種類	件数	前年度
完済件数	11	14
新規貸付件数	7	13
不能欠損件数(借受人死亡による)	4	0

① 平成30年度末の貸付件数

(単位:件)

償還の状況	件数	前年度
平成 30 年度末貸付件数	24	32
定期的に返済している方	0	0
不定期であるが、返済をしている方	4	6
今年度全く返済実績のない方	19	26
償還年月日未到来	1	0

(3) 緊急食料等支給事業

- (ア) 緊急を要する困窮者世帯に食料・ガソリン券等を支給した。 認定 NPO 法人セカンドハーベスト名古屋提供の食糧支援件数 10 件 本会独自事業の支援件数 5 件
- (イ)株式会社カーブスジャパン、カーブス尾鷲店より食料寄付の提供 生活困窮者への支援として、カーブス尾鷲店では会員に呼びかけて未 開封食料品の寄付を受け付け。集まった食料品の提供を受け入れ、本 会より生活困窮者世帯に配布した。 配布件数:8件





4. 権利擁護事業

(1) 日常生活自立支援事業

紀北地域(尾鷲市・紀北町)を対象とする基幹型社協として、2 市町の地域包括支援センター、障がい者総合相談支援センター及び関係機関と連携を図り、積極的できめ細やかな対応を心掛けた。また、利用者との信頼関係の構築に重点を置き、安心・信頼できる適切な金銭管理・福利サービス利用援助・書類等預かりサービスを実施した。

平成30年度実績

(単位:件)

		認知症	知的	精神	その他	合計	前年度
		高齢者	障がい者	障がい者			削十茂
	相談	140	159	325	122	746	873
	新規	3	1	0	1	5	13
契約	解約	2	0	1	0	3	1
د ۱۰	継続	7	17	11	7	42	30

利用者地区

(単位:件)

	尾鷲市	紀北町	その他	合計
契約(3月末)	18	26	0	44

(2) 法人後見・サポート事業

① 制度の利用に関する相談 7件(うち申立て支援0件)

【受任件数】 (単位:件)

	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合計	前年度
新規受任	0	0	0	0	0	0
既受任	0	0	0	0	0	1
終了件数	0	0	0	0	0	1
累計件数	0	0	0	0	0	1

② 権利擁護推進委員会

開催日: 平成 30 年 11 月 28 日

2. 地域包括支援センター

1. 包括的支援事業

- (1) 総合相談支援
 - ① 総合相談窓口の設置
 - (ア)高齢者に関する総合相談窓口として相談援助を行った。相談者が抱える 課題に応じたサービスや制度の利用支援・情報提供及び関係機関への紹介を行った。
 - (イ)専門的な相談機関として継続的に相談支援を行った。自宅への訪問や関係者からの情報提供を受け、課題を明確にして個別の支援計画を策定し適切な制度やサービスへとつなぎ評価を行った。

(単位:件)

		介護·	サービ	医 療	所 得	その他	苦情	権利	合言	計
内	訳	日常生活	ス利用					擁護		
件	数	457	136	12	5	8	5	4	6	627

(前年度相談受付件数: 634 件)

② 地域ケア会議の運営

個別ケースの支援に対して多職種の関係者が連携することで、地域支援ネットワークの構築、地域の自立支援に資するケアマネジメントの支援、地域の課題の把握などを行った。 〈平成30年度4件 前年度10件〉

③ 地域包括支援センターの周知・啓発

「社協だより」への掲載 平成30年度 2回 前年度4回 「包括だより」の発行 平成30年度 3回 前年度4回 「社協ホームページ」の更新及び認知症ケアパスの掲載

④ 輪内ブランチの運営

輪内高齢者サービスセンターに設置した輪内ブランチで、地域の高齢者 の福祉・介護の総合相談窓口として対応した。

(2) 権利擁護業務

- ① 高齢者虐待への対応・防止
 - (ア) 高齢者虐待相談窓口の設置

尾鷲市福祉保健課と協働で高齢者虐待に関する相談窓口を設置し、自宅訪問や関係者から情報を収集し、コア会議により虐待の有無や緊急性を判断し解消に向けた対応を行った。

(イ)高齢者虐待相談の受理

受理件数 2件(うち認定1件、前年度認定件数1件)

(単位:件)

内	訳	身体的	心理的	経済的	性的	介護放棄
件	数	0	0	0	0	1

② 福祉制度の活用

(ア)日常生活自立支援事業の活用

日常生活自立支援事業の利用調整(相談斡旋を含む)を行った。

(イ)成年後見制度の活用

成年後見制度の利用援助(情報提供、申立支援、斡旋等)を行った。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント

①地域包括ケア会議の開催

尾鷲市から委嘱された多職種による委員により、地域の課題を共有し地 域づくり・資源開発、政策形成へと繋げる地域包括ケアシステムの構築を目 指した取り組みを行った。

	開催日	参加人数	内 容
全体会議	7月19日	21 名	委員委嘱
			虐待対応部会事例報告、新規事業紹介
介護予防検討会議·	12月4日	16 名	ふれあい収集とゴミ出し支援事業
生活支援サービス検討会議			事例発表・意見交換
全体会議	3月7日	20 名	認知症部会事例報告
			在宅医療介護連携部会事例報告
			プロトコルについて(橋爪委員長)



(全体会議)

② 居宅介護支援事業所連絡会議の開催

居宅介護支援事業所連絡会議において研修会等を開催しケアマネジメント技術を高め、関係機関と連携して高齢者を支援する取り組みを行った。

居宅支援事業所連絡会議

4回開催

	開催日	参加人数	内 容
第1回	5月15日	29 名	事例検討、統合失調症について理解を深める。
			講師:川口 恵子氏(三重県尾鷲保健所)
			紀北在宅医療介護連携支援センターについて
			(紀北広域連合職員より)
第2回	7月11日	29 名	「記憶障害のリハビリテーション」
			講師:園田 茂氏(七栗記念病院)
第3回	11月14日	19名	認知症初期集中支援チームについて
			交流会(ストレス軽減・リラックス法・指ヨガ体験)
			講師:木許 祐美代氏(ヨガ講師)
第4回	1月31日	24 名	在宅医療・介護連携に関する「事例検討会」
(紀北町		(尾鷲市)	サ高住事例1件、在宅事例1件
合同)			紀北医師会共催

(前年度開催回数:4回)



(第2回研修会)



(第4回事例検討会)

- ③ 居宅介護支援事業所ケアマネジャー支援 市内の居宅介護支援事業所のケアマネジャーからの相談に対応した。 平成30年度75件 前年度90件
- (4) 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援

要支援者及び事業対象者が介護状態となることを予防し、または維持するために適切なケアマネジメントを行い、介護予防ケアプランの作成等必要な支援を行った。

- ① 要支援者への介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント 介護保険を申請して要支援1、2と認定された方。
- ② 介護予防・生活支援サービス事業対象者への介護予防ケアマネジメント 事業に参加を希望された 65 歳以上の方で尾鷲市、地域包括支援センター 等が実施した基本チェックリストにより総合事業の対象となった方。

予防プラン作成および給付管理数

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
介護予防	自機関	21	21	21	22	19	19	
支援	委託	16	18	18	18	20	20	
	合計	37	39	39	40	39	39	
介護予防	自機関	78	84	87	85	82	85	
ケアマネ	委託	48	52	49	50	47	46	
ジメント	合計	126	136	136	135	129	131	
/								
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防	自機関	10月 20	11 月 20	12月 21	1月 24	2月 24	3月 23	合計 255
介護予防支援	自機関委託							
		20	20	21	24	24	23	255
	委託	20	20	21 20	24 21	24	23 22	255 231
支援	委託合計	20 19 39	20 18 38	21 20 41	24 21 45	24 21 45	23 22 45	255 231 486

(介護予防支援前年度合計:1,617件)

(5) 認知症施策の推進(新規)

① 認知症初期集中支援チームの運営(新規)

医療・福祉の専門職が、認知症の方や疑われる方、その家族を訪問し、 アセスメントを行うことで、家族などへの初期の支援を包括的・集中的に 行い自立生活の援助を行った。

訪問人数:3人、訪問回数:17回

認知症初期集中支援チーム員会議の開催:4回

② 認知症地域支援推進員の設置(新規)

(ア)認知症ケアパスの作成(新規)

本人や家族が認知症について正しい知識をもち、医療・介護・地域資源のサポートを活用しながら、安心して暮らせるよう症状、本人の状態に応じて受けられるサービス、認知症の方への接し方などの情報をとりまとめた「認知症ケアパス」を作成し、各関係機関への配布等を行った。

(イ)認知症カフェの運営(新規)

認知症の理解を地域全体で深め、認知症の人やその家族や医療や介護の 専門職、地域住民などが気軽に集まることが出来る場所作りを行った。

	開催日	参加人数	内容
第1回	6月21日	10 名	内容:交流会
			講師:濱口 敦子氏
			(NPO 法人 HEART TO HEART)
			場所:尾鷲市福祉保健センター
第2回	12月6日	13名	「笑いヨガ・指ヨガ・椅子ヨガ」
			講師:木許 祐美代氏(ヨガ講師)
			場所:尾鷲市福祉保健センター
合計		23 名	



(ウ) 認知症サポーター養成講座

	開催日	参加人数	依頼先
第1回	8月24日	9名	尾鷲市社会福祉協議会
第2回	9月29日	110名	尾鷲中学校2年生
第3回	10月22日	13名	尾鷲高等学校(家庭看護選択生)
第4回	10月31日	20 名	生活協同組合コープみえ
第5回	1月9日	10名	(株)アルフレッサ
第6回	3月12日	17名	三木里地区地域住民
合計		179 名	

(前年度参加人数:235 名)



(第2回養成講座)



(第3回養成講座)

(エ) 認知症サポーターフォローアップ研修の開催(新規) 認知症サポーター養成講座を受講したのち、さらに専門的・実働的な 知識を深める研修を開催した。

開催日:平成31年1月21日

場 所:尾鷲市中央公民館3階講堂

参加者:17名

内 容:介護に寄り添う演技体験講座

講 師: 菅原 直樹氏

(三重県文化会館との共催プロジェクト)



(オ) 尾鷲市高齢者等 SOS ネットワーク事業への協力

徘徊や行方不明になる恐れのある認知症高齢者の情報を尾鷲市に登録し、行方不明になった場合は予め登録を行った協力団体に協力を依頼を行い、連携して行方不明者捜索の協力を行った。

(カ) 出前講座の開催

3回開催

開催日	内 容	参加人数	依頼先
6月14日	認知症講話・指つぼマッサージ	13名	倉ノ谷サロン (和の会)
10月31日	認知症予防講話・予防レク	11 名	倉ノ谷サロン (和の会)
2月14日	認知症予防レク・介護予防レク	11 名	倉ノ谷サロン (和の会)

(前年度開催回数:4回)



(倉の谷サロン)

2. 任意事業

(1) ケアプラン点検事業

紀北広域連合主催のケアプラン点検事業に主任介護支援専門員1名が2回参加した。

(2) 家族介護支援事業

要介護高齢者を介護する家族の精神的負担の軽減と介護者同士の情報の交換を目的にした交流会や介護技術講習会等を開催した。

① 介護者の会の開催

平成 30 年度 71 名

	開催日	参加人数	内 容
第1回	5月1日	7名	ランチとおしゃべり会、お茶立て体験
第2回	6月21日	4名	認知症高齢者等の介護者相談会及び交流会
			講師:濱口 敦子氏(NPO 法人 HEART TO HEART)
第3回	7月5日	8名	要介護者向け食事の調理実習
			講師:小川 早知子氏
第4回	9月6日	30 名	介護方法(実技)講習会
			講師:ユマニテク福祉大学 伊藤 幾代氏
第5回	10月25日	3名	フラワーアレンジメント講座・交流会
			講師:川端 章子氏(池坊 正教授)
第6回	12月20日	8名	椅子に座って出来るヨガ講座
			講師 木許 祐美代 氏(ヨガ講師)
第7回	1月18日	6名	ランチとおしゃべり会
第8回	3月1日	5名	認知症高齢者等の介護者相談会及び交流会
			講師:濱口 敦子氏(NPO 法人 HEART TO HEART)

(前年度参加人数:101名)



(介護料理教室)



(介護技術講習会)

(3) 福祉用具:住宅改修支援事業

① 福祉用具の利用支援

福祉用具の利用に関しての助言や購入支援を行った。 福祉用具購入支援者 平成30年度16 名 前年度10名

② 住宅改修の利用支援

住宅改修に関する助言や理由書等の必要書類の作成を行った。 住宅改修利用支援 平成30年度38名 前年度37名

3. その他

- (1)研修会への参加
 - 「認知症初期集中支援チーム」チーム員研修への参加
 - 「認知症地域支援推進員」研修への参加
 - 各専門職に対する研修会等
- (2)会議への参加
 - 地域包括支援センター運営協議会
 - 三重県地域包括支援センター連絡会議
 - 地域密着型サービス運営推進会議
 - ▶ 認知症対応型共同生活介護 :7 カ所
 - ▶ 地域密着型小規模特別養護老人ホーム:2カ所
 - ▶ 地域密着型通所介護事業所 :7ヵ所
 - 養護老人ホーム入所判定委員会
 - 在宅医療介護連絡協議会
 - 三重県地域医療構想調整会議
 - (3)新しい包括支援事業作業部会等への参画
 - 在宅医療介護連携推進作業部会·幹事会
 - 介護予防·日常生活支援総合事業
 - 認知症施策の推進

3. 紀北地域障がい者総合相談支援センター結

1. 紀北圏域障がい者地域生活支援事業

(1) 相談支援事業

住みなれた地域で個人としての尊厳にふさわしい生活を継続し、相互に人格と個性を尊重しあいながら共生する社会の実現という総合支援法の理念に基づいた相談支援を行った。また、障がい者のライフステージに応じ必要な障がい福祉サービスや地域支援事業などの利用援助を身近な地域で支援した。

平成30年度の相談実人数は331人(H29・338人)であった。支援内容については、福祉サービスの利用に関する支援が多い。住み慣れた地域で自分の意向や希望する生活を実現するためにサービスについて詳しく知りたいためと思われる。就労に関する相談は専門相談として障がい者就業・生活支援センターが、担っているが、すぐに就労につながらないケースについては両センターそれぞれの担当が情報共有し連携して支援を行っている。不安の解消や情緒安定に関する支援も多く、特に精神障がいの方については地域資源が少ない地域のなかで支援センターでの電話相談が有効な支援方法の一つとなっている。

平成30年度、圏域内に新たに障害者共同生活援助(障がい者グループホーム)が開設され新しい地域資源が増えた。これまで在宅生活に支障が出てきた身体障がい者や精神障がい者は、紀北圏域以外の施設等に行かざる得なかったが、地域を離れることなく生活が継続出来るようになった。グループホームへの後方支援を行い、新しい支援機関が地域で定着できるように協力した。

金銭管理が上手くできず生活に支障が生じるケースが多く、日常生活自立 支援事業や生活相談支援事業と連携しながら支援を行った。独居の方や家族の 協力が得られない方も増加しており今後の支援体制も検討が必要である。また 本人が気づかなくても、虐待や人権侵害が疑われるケースもあり、個人として 尊厳される共生社会の実現に向けての地域づくりも課題である。

①障がい別 年間相談者実数(児・者)

(単位:人)

区分	実人員	身体	重症 心身	知的	精神	発達	高次脳機 能	その他
尾鷲市	184	21	3	76	44	23	3	14
紀北町	147	10	1	77	36	10	0	13
計	331	31	4	153	80	33	3	27

② 支援方法別 相談延べ件数

(単位:件)

区分	訪問	来所 相談	同行	電話 相談	電子メール	関係 機関	個別支援 会議	その 他	計
尾鷲市	1. 080	746	102	1. 118	2	469	213	442	4. 172
紀北町	978	299	85	851	12	321	212	209	2. 967
計	2. 058	1. 045	187	1. 969	14	790	425	651	7. 139

③ 支援内容(延べ件数)

(単位:件)

内容	延べ件数	尾鷲市	紀北町
福祉サービスの利用に関する支援	3. 513	2. 008	1. 505
障害者症状の理解に関する支援	140	72	68
健康・医療に関する支援	446	243	203
不安の解消・情緒安定に関する支援	535	193	342
保育・教育に関する支援	804	585	219
家族関係・人間関係に関する支援	280	119	161
家計・経済に関する支援	161	82	79
生活技術に関する支援	109	86	23
就労に関する支援	274	180	94
社会参加・余暇活動に関する支援	657	461	196
権利擁護に関する支援	31	12	19
その他	189	131	58
計	7. 139	4. 172	2. 967

(2) 紀北地域協議会の運営支援

平成30年度は、第4期紀北地域障がい者福祉計画及び第5期尾鷲市・紀北町障がい福祉計画に基づいた取り組みの初年度であり、こころ部会、就労部会、を各年3回開催し、それぞれ年間テーマを決め活動を行った。また、計画相談を行う特定相談支援事業所連絡会を立ちあげ、制度改正や報酬改正に伴う勉強会やケースについての意見交換会を3回行った。圏域研修は「障がい者の方への実践的地域支援」をテーマとして2回開催した。平成20年度から取り組んでいる防災については「今まで参加していない方と訓練を行う」をテーマに2回開催した。

平成30年度 紀北地域協議会部会活動

如人夕	_ ,_ , ,				
部会名	取組内容				
	テーマ:「精神科病院や入所施設からの地域移行」				
	○在宅援護事業の継続実施と考察。尾鷲市3名が利用し、1名が				
	精神科病院から地域移行した。				
	○地域移行関連の制度改正、勉強会				
こころ部会	○三重県で作成された「地域移行アセスメントシート」利用に				
	むけて、ロールプレイをしながら検討				
	○実際に精神科病院から地域移行した方、現在施設入所している				
	方6名に、地域移行アセスメントシートを使って聞き取りを行				
	い部会メンバーで考察をした。				
	テーマ:「一般就労の拡大や新しい就労形態づくり」				
	○農福連携:三重県障がい者就農促進協議会、中野氏による研修				
	会の開催。松阪市の就労継続支援B型事業所、八重田ふぁーむ				
	の視察。モデル的取り組みとして、からし菜栽培の実施。				
就労部会	○水福連携:三重県農林水産部職員による水福連携の取組の紹介				
	先進事例である志摩水福の視察。				
	○代行作業:伊勢市の社会的事業所まかせ太君の視察。				
	モデルケースとして高圧洗浄機利用による清掃の代行作業に				
	取り組んだ。				
	○三重県で作成された「地域移行アセスメントシート」利用にむけて、ロールプレイをしながら検討 ○実際に精神科病院から地域移行した方、現在施設入所してい方6名に、地域移行アセスメントシートを使って聞き取りをい部会メンバーで考察をした。 テーマ:「一般就労の拡大や新しい就労形態づくり」 ○農福連携:三重県障がい者就農促進協議会、中野氏による研会の開催。松阪市の就労継続支援B型事業所、八重田ふあーの視察。モデル的取り組みとして、からし菜栽培の実施。 ○水福連携:三重県農林水産部職員による水福連携の取組の新先進事例である志摩水福の視察。 ○代行作業:伊勢市の社会的事業所まかせ太君の視察。 モデルケースとして高圧洗浄機利用による清掃の代行作業に				

平成30年度 圏域研修

平成 30 年)	度	(単位:人)
研修名	講師	参加
		人数
平成 30 年 12 月 11 日	済生会明和病院	
高次脳機能障がい者の地域支援に	院長 松島聡 氏	35
ついて	三重県身体障害者総合福祉センター	30
	支援部 部長 鈴木真 氏	
平成31年2月14日	特定非営利活動法人アイパートナー	
視覚障がい者の方への支援を学ぶ	視覚障がい者生活訓練指導員	19
(ヘルパー実践講座)	前川賢一 氏	19
	寺田真也 氏	





平成30年度 避難訓練

	平成 30 年度 避難訓練	(単位:人)
開催日・地域	内容	参加人数
亚出 20 年 6 日 12 日	防災カードゲーム、防災かるた	当事者、家族 13
平成30年6月13日	紀北町健康センター屋上避難所	支援者等 5
紀北町	へ体験避難	
	一般就労者を対象に開催	当事者 7
平成31年3月17日	尾鷲市防災センターで研修	支援者等 6
尾鷲市	「大規模災害に備えて」	
	防災危機管理課 久保将太 氏	





(3) ピアサポーター活動支援

「共通の経験と関心をもつ仲間同士の相互支援」を基本とするピア活動に 共に取り組んだ。尾鷲市林町会館と東長島公民館で、月2回行う「すずらんサロン(日中の居場所作り)」を中心に活動を継続した。サロンでは話し合いでメニューを決め協力、分担して昼食作りを行った。「助け合い・支え合い・育み合いの力」として、自分たちで外出計画をたて熊野市鉱山資料館見学や熊野病院祭に参加した。延べ人数で尾鷲市77人、紀北町22人、合計で99人の参加があった。

尾鷲市身体障がい者互助会の活動支援では、会員間の親睦交流の機会として三重県総合博物館MieMuを見学した。





2. 障害者就業・生活支援センター事業

国の雇用安定等事業である就業・生活支援センター事業では、障がい者の雇用の安定や実習先の開拓に取り組んだ。一般就労 18 人、雇用契約を結ぶ就労継続支援 A 型事業所 1 人、職場実習 30 件(H29・11 件)の実績があった。今年度は実習に力を入れたことで実習件数が大きく伸びた。新しい実習先の開拓を行い実習のみと受け入れしてくれた企業が、実際に働く姿をみて雇用につながったケースもあった。障がい者に対する様々なイメージが先行するなかで、実際に働く姿を見ることは障がい者への理解にもつながり、雇用も広がった。

今年度は、基幹型支援センターや特定相談事業所と連携しながら業務を整理して、二次相談や専門相談の体制作りを行った。その結果、相談件数は減ったが、より丁寧な支援を行うことができた。定着率も目標値を上回り 73.4% であった。

在職者を中心として交流会(ワークわくわく)を 4 回開催し、仕事の悩みを共有したり、疾患との付き合い方やグループワークを行うとともに余暇支援として作品制作やマナーを学びながらの食事体験も行った。

就労登録者

(単位:人)

登録者数		新規	継続	合計
		23	156	179
内訳	身体障がい	7	18	25
	知的障がい	6	83	89
	精神障がい	9	49	58
	その他	1	6	7

平成30年度の就労実績

(単位:人)

障がい種別					
1週間の	身体	知的	精神	その他	計
勤務時間数					
一般(30 時間以上)	3	1	4	0	8
20 時間以上 30 時間未満	0	4	3	0	7
20 時間未満	0	0	2	1	3
計	3	5	9	1	18

市町別一般就労実績

(単位:人)

	区分合計		(内訳)					
圏域合計			身体	知的	精神	その他(発達)		
		18	3	5	9	1		
内	尾鷲	8	1	3	3	1		
訳	紀北	10	2	2	6	0		

相談支援件数(内容別)

(単位:件)

内容	身体	知的	精神	その他	計
就職に向けた相談支援	78	505	197	10	790
職場定着の為の相談支援	44	130	261	1	436
日常生活に関する相談支援	14	460	145	8	627
就業と生活に関する相談支援	1	10	7	0	18
計	137	1. 105	610	19	1. 871

相談支援件数(手段別)

相談支援件数(手段別)	単位:件)
センターへの来所(本人のほか、家族等も含む)	284
電話・ファックス・E-mail等	809
職場訪問(定着支援のほか、職場実習支援を含む)	161
家庭・入所施設への訪問	102
その他(ハローワークへの同行訪問、各種手続きの支援、ケース会議への参加等)	515
計	1. 871

平成30年度 在職者交流会(ワークわくわく)

	T 12 - 7 - 7		
開催日		開催日	
	第1回	仕事を続けるために	10
	平成 30 年 7 月 28 日		10
	第2回	疾患を知り職場定着を目指そう	3
	平成 30 年 10 月 13 日	熊野病院祭でワーカーと勉強会	S
	第3回	障がいとの付き合い方	6
	平成 30 年 12 月 13 日	グループワーク	O
	第4回	職場での危機管理を考える	7
	平成 31 年 3 月 10 日	今年度の仕事の振り返り	/





(単位:人)

3. 障がい児等療育相談支援事業

(1)療育相談

三重県から委託を受けている障がい児等療育相談支援事業は、専門相談機 関としての役割を持ち、地域で暮らす障がい児や家族の相談支援を行った。

登録者 (単位:人)

	登録者数	116
内訳	身体障がい	3
	知的障がい	27
	精神障がい	0
	その他	86

相談支援の内容

活動内容	延べ件数	実人数
電話	55	36
来所	57	42
訪問	119	42
ケア会議	32	17
助言・利用調整	90	14
その他(重度心身障害者相談事業・親子の会)	11	6
計	364	157

(2)療育指導(すまいる教室)

療育教室(すまいる教室)の指導や助言を行い、障がい児や発達の気になる子どもに小グループによる療育支援を行った。親子参加を基本とし保護者の孤立を防ぎ相談や交流の機会とした。社会資源が少ない地域の障がい児に専門職による療育指導の機会として月2回、言語療法士に参加してもらったほか「風の広場」による専門療育指導(言語療法士)を年4回行った。

参加状況 (単位:人)

区分	実人数	延べ人数
尾鷲市	20	377
紀北町	13	167
計	33	544

(3) 支援ネットワークの構築

発達の気になる子どもが増えており、乳児健診委員会での支援対象児の把握や尾鷲市、紀北町の1歳半、3歳児健康診査や紀北町の5歳児健診への参加

協力を行った。年2回の個別支援会議を通して関係機関の連携も深まった。身近な地域で研修が受けられるように昨年度に引き続き動作法研修を開催した。

国が障がい児支援の強化のため、身近な地域で質の高い支援の場を提供する 給付制度での児童発達支援を新設したこともあり、委託事業である当事業は、 平成30年度で終了となった。

4. 障がい者社会参加促進事業及び生活支援事業

(1) フラワーアレンジメント教室

尾鷲市福祉保健センターで開催。講師 池田比早子氏 開催 12 回 延べ参加人数 194 人(尾鷲市 89 人 紀北町 105 人)

(2)音楽教室

尾鷲市福祉保健センターで開催。「癒やしの会」主催で音楽療法士福田先生 に依頼して実施。

開催 12 回 延べ参加人数 126 人(尾鷲市 83 人 紀北町 43 人)

(3) 歩行訓練

視覚障がい者に対して歩行訓練やパソコン・点字の指導を行う。 開催12回 視覚障がい者3人 延べ参加人数26人

(4) はあと畑

毎週月曜日、会員の昼食を作り、尾鷲市福祉保健センター1階ロビーを利用し、障がいのあるメンバーが接客を行いながら就労体験をする。37回開催

(5) おもちゃ図書館

障がい児等の遊び場の提供や交流の場として実施。開催21回

(6) 尾鷲市ふれあいスポレク祭 2018 の開催

平成 30 年 10 月 20 日開催 障がい者 65 人 ボランティア 10 団体 34 人 福祉協力校 7 校 40 人 その他 44 人 合計 183 人

(7) その他

紀北町生活交流会・ふれあいスポーツ大会、くろしお学園おわせ分校学習 発表会・運動会等に参加した。





5. 指定特定相談支援事業·指定障害児相談支援事業·指定一般相談支援事業

障がい福祉サービス利用に必要な計画作成を行った。本人の思いを引き出し、サービス利用だけでなく、これからの生活についても一緒に考えながら支援を行った。平成30年度は専従職員を1名増員し支援の質を充実させた。また、研修を受講し精神障害者支援体制加算が算定できるようになった。

特定相談支援障害児相談支援

(単	<i>1</i> 1	_	件)

	利用計画	継続支援
尾鷲市	100	199
紀北町	90	187
圏域外	9	28
計	199	414

支援方法別 相談延べ件数

(単位:件)

区分	訪問	来所 相談	同行	電話等 相談	その他	計
尾鷲市	703	181	31	568	112	1, 595
紀北町	780	62	18	496	83	1, 439
計	1, 483	243	49	1, 064	195	3, 034

6. 日中一時支援事業

学校の春休み、夏休み、冬休みにおいて家庭外の居場所が必要な障がい児 に対して日中一時サービスとして預かり保育を実施。

延べ人数35人 (実人数 尾鷲市3人 紀北町1人)

7. 地域福祉活動ステップアップ支援事業

三重県社会福祉協議会が行う地域福祉活動ステップアップ支援事業を活用 し障がい者福祉計画の重点目標にしている障がい者だけでなく、生活困窮者 やひきこもりがちな方を含めた新しい就労形態作りに取組んだ。

農福連携、水福連携、代行作業(なんでも屋)を行っている事業所の視察や地域での協力者を集めるための周知活動や研修会を開催した。30 年度はモデル的に中間的就労という形で農福連携によるからし菜栽培と高圧洗浄機等を利用した清掃を中心とした代行作業の体制作りを行った。

からし菜栽培では 2 反の畑を貸していただき、農業指導などのボランティアの協力を得て就労を目指す障がい者の方と活動をした。また代行作業では、丁寧な作業態度を身近で見ることで「障がい者へのイメージが変わった」という地域からの声もいただいた。作業を行った障がい者の方にも、賃金をもらって働く責任感と自身の役割を意識する等の変化が見られた。

地域住民の身近なところで障がい者の方が働く姿や作業の成果をみる機会があることで、障がいに対する理解も進み共生社会への一歩となった。最低賃金以上を支払う雇用の場を地域の困りごと解決と併せて整える取り組みは、地域づくりにつながる社会福祉協議会ならではの活動である。





Ⅲ. 介護サービス部門

1. 介護事務

介護サービス部門5事業所の総合的な調整および請求事務の管理部署として効率的な事務と効果的な調整を行った。

1. 介護事業所の運営・管理

- (1) 法人本部および輪内高齢者サービスセンターとの連絡・調整を行った。また、介護事業所職員の労務管理に努めた。
- (2) 職員研修を企画し職員のスキルアップに努めた。また、介護職員処遇改善加算を取得することで、職員の賃金改善を実施した。

2. 介護保険等請求事務

国保連、尾鷲市への保険請求、利用者への利用料の管理を実施した。

2. 居宅介護支援事業所

利用者、家族の意向に沿ったケアプランとなるよう、質の高いアセスメントを行うことに努めた。サービス担当者会議での決定内容を十分に確認し、利用者の意思や人権を尊重したサービス提供が出来るよう心がけ、安心して在宅生活が継続できるように支援を行った。

1. 職員体制

主任介護支援専門員2名 介護支援専門員4名

2. 業務内容

- ・居宅サービス計画(ケアプラン)介護予防サービス支援計画の作成
- ・サービス担当者会議の開催
- ・居宅、介護予防サービス計画の実施把握
- ・多職種との連携
- ・介護保険施設への紹介
- ・介護保険外の福祉サービスや福祉制度の利用援助
- ・国保連への給付管理
- ・その他の苦情や問い合わせ

3. 受託事業

・介護保険要介護認定調査 市外、県外の保険者より委託を受け、介護認定調査を行った。(1件)

・ケアプラン点検事業 紀北広域連合主催のケアプラン点検事業に、主任介護専門員を参加。

(単位:人)

4. 居宅サービス計画依頼実績

	平成 30 年度	前年度
居宅新規	63	56
居宅終了	35	63
※内訳(死亡)	15	26
(入所)	14	26
(移動)	6	11
予防給付 新規	3	2

5. 月別請求額

◇居宅介護 (単位:人·円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	159	155	157	166	163	167
収入額	2,487,510	2,412,500	2,482,810	2,618,530	2,571,640	2,621,760

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
174	171	165	164	175	170	1,986
2,775,870	2,690,730	2,588,400	2,584,870	2,754,850	2,668,200	31,257,670

(前年度) 利用者人数 2,134 人 収入額 33,040 千円

◇介護予防支援費

(単位:人·円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	3	2	2	3	3	4
収入額	12,900	8,600	8,600	12,900	12,900	19,700

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
3	3	3	2	2	2	32
12,900	12,900	12,900	8,600	8,600	8,600	140,100

(前年度) 利用者人数 75人 収入額 322 千円

◇介護予防ケアマネジメント費

(単位:人·円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	4	7	6	5	4	4
収入額	17,200	32,600	25,800	21,500	17,200	17,200

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
	5	5	6	5	6	5	62
ĺ	21,500	21,500	28,300	21,500	25,800	21,500	271,600

(前年度) 利用者人数 29人 収入額 124千円

6. ケアマネジメントの質の向上を図る

- ①週1回 居宅事務所内でのミーティングを実施
 - ・基本スキルの再確認
 - ・サービス提供にあたっての留意事項
 - ・困難事例ケース検討会
- ②居宅介護支援連絡会や外部研修会へ参加し、ケアマネージャーとしての意識向上、援助技術のスキルアップを行った。

3. 訪問介護事業所

ホームヘルパーが自宅を訪問し、「いつまでも自宅で過ごしたい」との思いに応えられるよう、日常生活上必要な支援を行った。

1. 訪問介護・総合事業訪問型サービス(介護保険)

自宅にホームヘルパーが訪問し、介護等が必要な方を対象に身体介護や生活援助のサービスを提供した。要支援者の利用人数は減少したが、要介護者の利用人数、回数ともに増加したため、全体(要支援者及び要介護者)での収入額は増加した。

(1) サービス内容

- 身体介護:入浴介助、排泄介助、食事介助、通院介助、体位変換 その他の身体介護
- 生活援助:掃除、調理、洗濯、買物、その他の家事援助
- 通院等のための乗車または降車の介助
- 身体介護と生活援助の組み合わせ

◇訪問介護月別実績

(単位:人・円)

	/	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	利用人数	79	82	83	89	87	90
ĺ	収入額	3,804,850	4,194,510	4,235,120	4,500,920	3,968,680	4,098,570

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
95	88	91	84	89	91	1,048
4,000,150	3,607,360	3,647,050	3,604,260	3,664,550	4,095,450	47,421,470

(前年度) 利用者人数 1,042 人 収入額 45,176 千円

◇総合事業訪問型サービス月別実績

(単位:人・円)

/	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	24	27	26	26	24	24
収入額	283,510	388,590	364,910	361,980	341,160	339,430

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
26	24	23	22	22	21	289
367,450	359,200	304,270	300,470	317,700	285,730	4,014,400

(前年度) 利用者人数 363 人 収入額 5,640 千円

2. 障害者総合支援事業

障害者総合支援法に基づき、障害福祉サービスの提供を行った。居宅介護、 重度訪問介護、同行援護、移動支援及び在宅援護の各事業を実施した。新規利 用者があり利用人数は増加したが、重度の利用者の入所に伴い収入額は減少し た。

◇月別単位数(実績月)

(単位:人·円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	46	40	45	45	43	41
収入額	1,777,350	1,336,000	1,459,880	1,498,460	1,438,820	1,324,680

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
43	39	40	42	42	41	507
1,525,810	1,458,840	1,385,440	1,374,630	1,384,650	1,469,150	17,433,710

(前年度) 利用者人数 479人 収入額 18,728千円

3. 生活支援サービス「あんしん」(保険外サーピス) と一般乗用旅客自動車運送事業

介護保険外事業の一環として、生活支援サービス「あんしん」を行った。またケアプランに連動した輸送と介護保険外の輸送を一般乗用旅客自動車運送事業として実施した。

◇あんしん月別実績

(単位:人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	9	7	8	7	4	6
収入額	32,000	28,900	32,800	32,500	11,000	19,600

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10	12	8	12	10	14	107
28,800	41,000	24,400	35,500	36,100	46,700	369,300

(前年度) 利用者人数 157人 収入額551千円

◇運行利用料月別実績

(単位:人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	79	78	84	85	82	79
収入額	214,450	229,150	214,500	214,220	201,960	207,110

1	0月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	84	81	80	75	82	89	978
2	215,020	226,260	209,610	194,900	228,130	240,300	2,595,610

(前年度) 利用者人数 1,069 人 収入額 2,613 千円

4. 研修会等参加状況

(単位:人)

研修名	参加人数
腎臓セミナー	5
感染症勉強会	15
理学療法士に学ぶ介護技術研修会	29
認知症サポーター養成研修会	2
交通安全講習会 (8月)	35
介護実技講習会	15
防災研修会	5
腰痛予防対策講習会	2
食事介助研修会	2
災害ボランティアコーディネーター養成講座	1
高次脳機能障がい者の地域支援について	2
交通安全講習会(1月)	36
認知症サポーターフォローアップ講習	6
新任ヘルパー実技研修会	3
視覚障害者支援研修会	11



(感染症勉強会・手指チェック)



(理学療法士に学ぶ介護技術)

5. 平成30年度の重点的な取り組み

(1) チーム単位での効果的な研修復習会開催 メンバー全員のレベルアップを目標にサービス提供責任者会議で効果的な 復習会開催について検討し、各チームで復習会に励んだ。



(視覚障がい者支援研修復習会)



(食事介助研修復習会)

(2) 各チームでの自主的な研修・研究の開催 必要な介護技術等について、サービス提供責任者を中心に研修・研究を積極 的に行った。



(トランスファーボード研究)



(ベッド上洗髪研修)

(3)「てんとう虫くらぶ」(推定歩行年齢測定会)開催 職員が体力を維持して、いきいきと働き続けられる職場を目指して、「てんと う虫くらぶ」を開催した。



(立ち上がり測定)



(カフェ&お持ち帰りコーナー)

4. 訪問入浴事業所

1. 訪問入浴・介護予防訪問入浴(介護保険)

高齢者が住み慣れた自宅で、在宅生活が継続出来るよう、看護師、介護職員が チームとなり、利用者の身体状況に応じた安全で快適な入浴サービスを提供した。 例年、夏期に利用回数が増えるが、自宅での介護が困難になり施設入所される 利用者が多かったことで、収入が減少した。

(1) サービス内容

- ① 看護師による健康チェック
- ② 衣類の脱着介助
- ③ 浴槽への安全な移動介助
- ④ 入浴介助
- ⑤ 在宅介護相談



(2) 訪問入浴の利点

- ① 寝た状態で入浴が出来るため、身体的負担が少ない
- ② 看護師を含む3人での手厚い入浴介護
- ③ 温浴によるリハビリ効果、褥瘡の改善
- ④ 徹底した衛生管理
- ⑤ リラックス効果による睡眠の質の向上

(3)利用者ニーズ

- ① 利用者、家族が在宅生活の継続を望んでいる。
- ② 身体的負担からデイサービスの利用が困難である。
- ③ 高台に住居があり、浴室など生活環境に課題を抱えている。

◇訪問入浴介護 月別実績

(単位:人·円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	11	10	10	11	8	7
収入額	664,300	664,310	638,250	716,400	591,350	364,710

[10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	7	7	7	9	9	10	106
I	416,830	425,940	416,810	478,030	569,190	638,250	6,584,370

(前年度) 利用者人数 130人 収入額 7,573 千円

5. 尾鷲通所介護事業所 (デイサービスいきいき)

◎地域密着型通所介護・総合事業

いつまでも元気でいきいきとした生活を送れるよう、日常生活に必要な身体機能の維持・向上を目的にサービスを提供した。一日のデイサービスは長く感じる方や初めてデイサービスを利用する方からのニーズは高く、半日のデイサービスとして利用者の満足度を高めるよう努力した。今年度は総合事業(要支援)の方が地域密着型通所介護(要介護)へ移行が増加した。

サービス内容

- ① 脳トレ(パワーポイントを使用して漢字やなぞなぞ等全 100 種類以上)
- ② 呼吸体操・集団体操・口腔体操・レクリエーション (呼吸体操・ストレッチ・ボール運動・セラバンド運動・有酸素運動・ 重心移動運動・脳トレ交えた手遊び等)
- ③ 足浴サービス
- ④ 身体の介助・支援(移動介助・見守りなど)
- ⑤ 日常生活の相談・助言
- ⑥ 入浴サービス
- ⑦ 個別運動器機能向上サービス(作業療法士による運動メニュー作成)
- ※⑥ ⑦に関しては選択的サービス



(パワーポイントで映しながら脳トレ)



(ボールを使用した体操)

(単位:人・円)

◇地域密着型通所介護 月別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	20	19	21	22	24	25
収入額	687,130	705,710	771,140	832,370	810,080	770,790

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
24	23	23	23	25	22	271
831,040	790,680	717,710	613,140	695,790	707,980	8,933,560

(前年度) 利用者人数 251人 収入額8,775千円

◇総合事業 月別実績

 利用人数
 15
 11
 10
 10
 9
 8

 収入額
 267,762
 257,308
 243,010
 252,763
 235,000
 228,019

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10	12		11	10	10	127
266,030	287,310	279,010	285,550	254,520	257,790	3,114,072

(前年度) 利用者人数 199人 収入額 5,196 千円

◎一般介護予防事業(受託事業)

一般介護予防教室

尾鷲市から委託を受け、市内在住で 65 才以上の方を対象とした脳の活性化に向け脳トレや介護予防の為の自宅で出来る簡単トレーニング等を指導・実践した。

(単位:回・円)

(単位:人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開催数	12	14	13	14	10	11
収入額	300,000	350,000	325,400	350,000	250,000	275,800

I	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
I	13	12	13	11	12	14	149
I	327,000	301,600	327,000	276,000	302,200	352,000	3,737,000

(前年度) 実施回数 162 回 収入額 4.064 千円

◎その他

1.地域密着型運営推進会議

開催日 : 平成 30 年 9 月 21 日 · 平成 31 年 3 月 18 日

出席者 : 運営推進委員、利用者家族、関係機関

内 容 :利用実績報告、レクリエーションの体験、感症防対策

一般介護予防教室の説明、新年会報告

2.いきいき新年会の開催

開催日 : 平成 31 年 1 月 22 日

参加者 : デイサービス利用者及びボランティアほか 79人

内 容 :第三保育園児との交流、アオサギギターアンサンブルの演奏

レクリエーション

6. 輪内通所介護事業所

自立した日常生活を送ることを目標 として、要支援、要介護、障がい者の 方を対象に、日常生活上の世話や機能 訓練を行うとともに、引きこもり予防 や社会参加および介護をしているご家 族の負担軽減を図るために通所介護を 実施した。



1. 地域密着型通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業、障がい者通所介護

《サービス内容》

- ・入浴サービス(機械浴、一人浴、一般浴)
- ・送迎サービス
- ・生活指導(健康チェック、音楽鑑賞、レクリエーション、創作活動)
- ・食事の提供

(月別実績)

【thtt	恋差别	阿潘可	介護】

2人

¥42,930 ¥49,440

2人

鱼所介護】					
4月	5月	6月	7月	8月	9月
19人	21人	23人	24人	24人	26人
¥1,739,320	¥1,971,550	¥2,077,850	¥2,058,380	¥1,986,480	¥1,877,800
11月	12月	1月	2月	3月	승計
29人	27人	26人	28人	29人	302人
¥2,166,680	¥2,034,280	¥1,918,860	¥1,969,680	¥2,043,930	¥24,011,090
常生活支援総合	·事業】				
4月	5月	6月	7月	8月	9月
7人	9人	9人	8人	7人	11人
¥219,870	¥317,300	¥273,580	¥241,900	¥238,660	¥395,940
11月	12月	1月	2月	3月	合計
9人	10人	7人	6人	6人	98人
¥298,730	¥311,740	¥238,660	¥199,340	¥217,630	¥3,270,650
<u>介護</u>					
4月	5月	6月	7月	8月	9月
5人	5人	5人	5人	4人	4人
¥112,343	¥125,928	¥120,219	¥105,193	¥91,589	¥105,899
11月	12月	1月	2月	3月	合計
	4月 19人 ¥1,739,320 11月 29人 ¥2,166,680 常生活支援総合 4月 7人 ¥219,870 11月 9人 ¥298,730 6介護】 4月 5人 ¥112,343	4月 5月 19人 21人 ¥1,739,320 ¥1,971,550 11月 12月 29人 27人 ¥2,166,680 ¥2,034,280 常生活支援総合事業】 4月 5月 7人 9人 ¥219,870 ¥317,300 11月 12月 9人 10人 ¥298,730 ¥311,740 「介護】 4月 5月 5人 5人 ¥112,343 ¥125,928	4月 5月 6月 19人 21人 23人 ¥1,739,320 ¥1,971,550 ¥2,077,850 11月 12月 1月 29人 27人 26人 ¥2,166,680 ¥2,034,280 ¥1,918,860 常生活支援総合事業】 4月 5月 6月 7人 9人 9人 ¥219,870 ¥317,300 ¥273,580 11月 12月 1月 9人 10人 7人 ¥298,730 ¥311,740 ¥238,660 「介護】 4月 5月 6月 5人 5人 5人 ¥112,343 ¥125,928 ¥120,219	4月 5月 6月 7月 19人 21人 23人 24人 ¥1,739,320 ¥1,971,550 ¥2,077,850 ¥2,058,380 11月 12月 1月 2月 29人 27人 26人 28人 ¥2,166,680 ¥2,034,280 ¥1,918,860 ¥1,969,680 常生活支援総合事業】 4月 5月 6月 7月 7人 9人 9人 8人 ¥219,870 ¥317,300 ¥273,580 ¥241,900 11月 12月 1月 2月 9人 10人 7人 6人 ¥298,730 ¥311,740 ¥238,660 ¥199,340 (介護) 4月 5月 6月 7月 5人 5人 5人 ¥112,343 ¥125,928 ¥120,219 ¥105,193	4月 5月 6月 7月 8月 19人 21人 23人 24人 2

2人

¥57,240 ¥57,240

40 A

¥996,821

¥64,400

(前年度)利用件数収入額地域密着型通所介護336名29,562 千円介護予防通所介護89名2,451 千円障がい者通所介護49名1,748 千円

2人

¥64,400

2. 一般介護予防事業

高齢化が急速に進む中、尾鷲市より一般介護予防事業を受託し、市内在住で 65 歳以上の高齢者向けの介護予防に向けた取り組みを実施した。要介護状態・要支援状態ではないが、そのおそれがある高齢者向けの要介護予防を目的とした通所型介護予防事業(運動器機能向上・うつ・閉じこもり・認知症予防を目的)を受託し、介護予防事業を実施し、普及啓発に努めた。

(月別請求額)

【一般介護予防】

<u>k ////////////////////////////////////</u>	'9∡					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開催数	7	11	11	15	9	10
収入額	¥175,000	¥275,000	¥275,000	¥375,000	¥225,000	¥250,000
10月	11月	12月	1月	2月	3月	슴計
14	13	10	11	10	13	134
¥350,000	¥325,000	¥250,000	¥275 000	¥250,000	¥325 000	¥3.350.000

(前年度) 開催数 103 回 収入額 2,575 千円

尾鷲市から受託した一般介護予防事業について、地域住民からの要望を受け、 尾鷲市福祉保健課と協議の上、週5回、年間134回実施し、安心して地域住民が 住み慣れた我が地域で生活ができるよう、その一翼を担うことに繋げた通所介護 事業の使命が達成できた。

IV. 輪内高齢者サービスセンター

1. 輪内高齢者サービスセンター

1. 社会福祉協議会の分室機能

輪内地区の福祉の向上を図るため、次のような事業を行った。

- (1) 社協業務の受付窓口としての機能
 - ① 福祉相談窓口業務として相談を受付け、市や介護保険関係事業 所との連携を図った。
 - ② 輪内地区における募金事業の窓口として事業を推進した。 5月 日赤募金 10月 共同募金
- (2) 台風接近により高齢者サービスセンター避難所開設回数 無し
- (3) 施設の適正な管理・運営に努めた。

2. 輪内地区食の自立支援事業(委託事業)

生活支援型配食サービスとして、週3回(火、木、土、)、食事を作ることが困難な65歳以上の高齢者の方を対象に、食事内容の検討及び調理を行い各家庭へ配食した。

対象地区	輪内地域
	(梶賀、曽根、賀田、古江、三木里、三木浦)
登録者数	35 名
延べ配食数	4,153 食
事業費	2,559,000 円
(うち市補助分)	(897,800 円)

地区別登録者内訳

(梶賀 2、曽根 3、賀田 12、古江 11、三木里 4、三木浦 3)

3. 輪内地区あったか弁当事業(自主事業)

食事を作ることが困難で、市の配食サービスの対象とならない 65 歳未満の方が同居の住民に自主事業として、年間 375 食の配食サービスを実施した。